

第1課 世界で最初の高層建築

教室の入り口で生徒たちを迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。先週学んだことを生活の中でどのように体験したか話してもらいます。

「お話の前に」を始めます。

クラスの状況に応じてAかBのどちらかを選んでください。

祈りと讃美は「はじめよう」のあとの、プログラムのどこに取り入れてもかまいません。



違うのはいいこと

準備: 工作用紙、人数分のマーカーとはさみ、セロテープ

◎ 活動

- ・「何か動物を思い浮かべてください。どの動物にするか決めたら、その動物の耳の絵を描いて切り抜きましょう。そしてその耳をテープで頭に留めてください。」5分ほど時間を取ります。
- ・「それでは順番に立って、その場でぐるっと回ってみんなに耳を見せてもらいましょう。何の動物の耳かわかったら、手を挙げてください。」
- ・当てっこをする時間を取ります。

◎ 話し合しましょう

- ・「動物たちがそれぞれ違うことについてどう思いますか。」(わからない、いいと思う、気にならない)
- ・使徒言行録10:34、35を声に出して読みます。
- ・「神さまは、人間がそれぞれ違っていることをどう思っておられると思いますか。」(神さまが人間を違ったようにつくられた、神さまは違っていることを気に入っている)
- ・「神さまは私たちに、それぞれの違いについてどう思っほしいと願っておられるでしょうか。」(好きになってほしい、受け容れてほしい、そのことで人をからかたりしないでほしい)
- ・「先生は、神さまはこう願っておられると思います。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまは、私が文化や言葉、習慣の違う人々のことも

助けてあげてを望んでおられます。

B 歩き方の違い

◎ 活動

- ・「先生が合図をしたら、立って、先生の言う人のように歩いてください。そして先生がストップと言うまで歩き続けてください。いいですか。では、立ってください。」
- ・以下の例を一つずつ言っていきます。
よちよち歩きの子、お年寄り、兵隊、脚をギプスで固定した人、重い荷物を持っている人、ハイヒールを履いた女の人
- ・子どもたちが教室の中を歩きまわっている間に、一番上手にその歩き方をしている子を一人選びます。例を変えてこの活動を何度か繰り返します。
- ・それぞれの歩き方が一番上手だった子どもたちに前に立ってもらい、他のみんなを座らせます。
- ・選ばれた子どもたちは、その歩き方をみんなの前でデモンストレーションします。
- ・他の子どもたちはそれが「誰」の歩き方かを当て、なぜそう思うのかを説明します。

◎ 話し合しましょう

- ・「人間はみんな同じようには歩きません。それは何か理由があるからです。お年よりはどのようにゆっくり歩くと思いますか。」(転ばないように、目がよく見えないから、など)。
- ・子どもたちが答えるための時間を取ります。
- ・「神さまは私たちに、色々な違いや必要に気づいてそれを理解してほしいと願っておられます。もしかしたら、誰かが何かで私たちの助けを必要としているかもしれません。脚にギプスをした人にはどんな助けが必要だと思いますか。」
- ・子どもたちが考える時間を取ります。
- ・メッセージを言いましょう。

メッセージを一緒に言いましょう

神さまは、私が文化や言葉、習慣の違う人々のことも
助けてあげてくれることを望んでおられます。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。何か全員に発表したいことのある生徒がいたら、この時間にやってもらいます。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。
- ・お誕生日や特別な出来事を発表します。

◎ 伝道地便り

- ・「外国の人を助ける働きをしている人は世界中にいます。今日の伝道地便りにも、外国で人助けをしている人が出てきます。」
- ・子どものための伝道地便りか、その他の適当な活動を通して、教会が全世界に向けて行っている援助活動を紹介してください。

◎ 献金

- ・もし可能なら、今期の伝道地の様子がわかるような献金箱を用意してください。この献金箱は今期を通して使います。

◎ お祈り

- ・神さまは私たちに毎日お手伝いをしてほしいと思っておられることを、子どもたちに理解させてください。そして、周りの人たちをもっとお手伝いできるよう神さまにお祈りします。
- ・1人か2人の子どもにお祈りしてもらいましょう。
- ・最後にあなたが短いお祈りをして閉じてください。

第2課 長い、長い旅

教室の入り口で生徒たちを迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。先週学んだことを生活の中でどのように体験したか話してもらいます。

「お話の前に」を始めます。

クラスの状況に応じてAかBのどちらかを選んでください。

祈りと讃美は「はじめよう」のあとの、プログラムのどこに取り入れてもかまいません。

A 聞こえません

◎ 活動

- ・全員が呼ばれても、全員が聞いているわけではないということを実際にためてみます。
- ・子どもたちから見えるところに、子どもたちが興味を持ちそうな物を置いておきます(または、ゲームやパズルを与えて遊ばせます)。
- ・それから子どもたちに背をむけ、少しの間彼らを見向きを無視します。子どもたちはすぐにおしゃべりを始めて騒がしくなるでしょう。
- ・十分騒がしくなったところで、子どもの名前を小さな声で言っていきます。
- ・全員分の名前を呼んだら、もう1度最初から呼び、誰かが声を聞き取るまで続けます。
- ・最初に聞き取った子に近くに来てもらい、他の生徒は席に戻ります。

◎ 話し合しましょう

- ・「どうして先生の呼ぶ声が聞こえなかったのですか。」(わからない、聞こえなかったから、先生の声が小さかったから、ほかの事をしていたから)
- ・声を聞き取った生徒に尋ねます。「どうして先生の声が聞こえたのですか。」(先生の口が動いているのが見えたから、聞こえるように近くに行ったから、一生懸命聞こうとしたから、など)
- ・暗唱聖句のイザヤ6:8を読みます。「そのとき、わたしは主の御声を聞いた。『誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。』わたしは言った。『わたしがここにいます。わたしを遣わしてください。』」
- ・「神さまは、ご自分に仕えてほしいと、私たちみんなに声をかけておられます。けれども神さまの声を聞こうとしている人だけが、その声を聞くことができるのです。あなたはそのときどうしますか。」
- ・メッセージを言います。子どもたちはあなたといっしょに繰り返します。

メッセージを一緒に言いましょう

神さまのために働きなさいと言われたら、私は従います。

B 命令です

◎ 活動

- ・これは、子どもたちが、注意深く聞くことで、できないと思っていたことができるようになることを体験するための活動です。
- ・「今日は『命令です』というゲームをします。先生の言ったとおりのことをしてください。さあ、やってみましょう。」次の命令のうち、2つか3つを選んで言ってください。
 - 命令です、片足で立ってください。
 - 命令です、ピョンピョン跳びはねてください。
 - 命令です、鼻をピクピク動かしてください。
 - 命令です、鼻をたたいてください。
 - 命令です、頭をなでてください。
- ・「さあ、では次に、先生に言われたことをどんどん足しながらやっていきましょう。これは難しいですよ。できるかな。」
- ・子どもたちは、前に言われたことを全部やりながら、次々と新しい命令を足していきます。

◎ 話し合しましょう

- ・詩編112:1を読み聞かせます。
- ・「この『畏れる』というのは、『尊敬する』ということです。『いかに幸いなことか／主を畏れる人』その人はどうなるでしょう。『主の戒めを深く愛する人』になると書いてあります。」
- ・「これは、神さまを尊敬して、神さまの言うことをよく聞けば、幸せな気持ちになるという意味です。」
- ・「先生に難しいことをするよう言われたときどう思いましたか。」(やりたくなかった、できるようになりたいと思った)「みんなとてもよくできましたよ。」
- ・「アブラムはなぜ、神さまに言われたとおりのことをしたのでしょうか。」(神さまの声をよく聞いていたから)
- ・「アブラムは神さまの声が聞けて嬉しかったのでしょうか。神さまにお手伝いをするように言われたら、どうしますか。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまのために働きなさいと言われたら、私は従います。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・ビジターのお友だちを紹介します。お誕生日や特別な出来事を発表します。

◎ 伝道地便り

- ・「外国にいる人たちも、周りの人を助けています。今日は遠い国に住んでいる人たちのお話を聞いてください。」
- ・子どものための伝道地便りか、その他の適当なお話を読みます。

◎ 献金

- ・先週と同じ献金箱を使います。今期の伝道地について、何か新しいことを子どもたちに教えてください。

◎ お祈り

- ・子どもたちに、最近誰かを助けた経験があるか聞きましょう。
- ・子どもたちが周りの人を助けることができたことを感謝し、その努力に対して祝福をくださるようお祈りしてください。

第3課 救出に向かったアブラム

部屋の入り口で生徒たちを迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。先週学んだことを生活の中でどのように体験したか話してもらいます。

「お話の前に」を始めます。

クラスの状況に応じてAかBのどちらかを選んでください。

祈りと讃美は「はじめよう」のあとの、プログラムのどこに取り入れてもかまいません。

A

愛の贈り物

準備：人数分の粘土の固まりかアルミホイル

◎ 活動

- ・「この粘土(またはアルミホイル)を使って、今週ただで手に入れたものの形をつくってください。キャンディーや寝る場所など、もらったり使ったりした物で、お金を払わなかった物です。3分以内につくりましょう。ではどうぞ。」
- ・時間になったら、2人ずつペアを組ませます。
- ・「パートナーの人につくった物を見せて、それが何かと、なぜただだったのかを説明してください。例えば、お金をつくった人がいるかもしれませんね。それを見せて、これは道で拾ったからただだった、というように説明します。」
- ・何人かの作品はクラスの全員に見せます。クラスのみんなはその作品が何を表すのかを当てていきます。

◎ 話し合しましょう

- ・聖書を開いてヤコブ1:17を声に出して読みます。
- ・「神さまは私たちにたくさんのをただでくださっています。神さまは私たちにそれをどうしてほしいと思っておられるでしょう(他の人と分け合ってほしい)。神さまからいただいた物を他の人に分けてあげてあげて、奉仕といいます。神さまは私たちに、愛の気持ちで周りの人に仕えてほしいと思っておられます。それを聞いてあなたはどうしますか。先生の後について、メッセージを言きましょう。」

メッセージを一緒に言ひましよう

私は愛の心で、他の人々に仕えます

B 喜んでお手伝いをします

- ◎ 活動 準備:ペン、本、タオル、工具、紙コップなどのシンプルな雑貨を
1グループ(子どもが少ないところは一人)につき1つ、グループ(あるいは人数)と同じ数の紙袋
- ・クラスの始まる前に、紙袋にそれぞれ違う物を入れておきます。クラスを5つか6つのグループに分けます。
 - ・「これからグループで、紙袋の中のものをどう使ったら周りの人に仕えることができるかを考えます。どんな道具を持っているか他のグループの人に見られないようにしてください。」
 - ・「グループで、袋の中を見て何があるか確かめてください。それから、その中のものを使って困っている人をどうやって助けることができるかを表す短い劇をつくります。劇の中でセリフを言っても構いません。5分で準備してください。」
 - ・何をしたらよいかを簡単にデモンストレーションします。食器用ふきんを見せて、紙袋に入れます。それから、お皿を拭いて片付けるジェスチャーをします。「私がお手伝いのために使ったものは何でしたか(袋からふきんを取り出す)。食器用のふきんでした。」
 - ・時間が来たら、みんなに座ってもらいます。それぞれのグループに、袋の中のものを見せずに劇をしてもらいます。他のグループの人たちは、その雑貨が何かを当てます。
- ◎ 話し合いましょう
- ・聖書を開いてガラテヤ5:13(暗唱聖句)を読みます。
 - ・「だれかに手伝ってあげましょうと言われたらどんな気持ちになりますか。」(うれしい)
 - ・「イエスさまはなぜ、私たちに周りの人に仕えてほしいと思っておられるのでしょうか。」(愛を示すため、愛の賜物として奉仕してほしいと思っておられる)
 - ・「神さまは私たちに、愛の心で周りの人に仕えてほしいと思っておられます。あなたはそれを聞いてどうしますか。」
 - ・子どもたちにメッセージを言わせます。

メッセージを一緒に言いましょ

私は愛の心で、他の人々に仕えます

- ◎ お祈りと賛美(随時)
- ◎ 交わりの時間
- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
 - ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。
 - ・お誕生日や特別な出来事を発表します。

◎ 伝道地便り

- ・「世界中で、人々は助け合いながら生活しています。今日は、神さまの声を聞いて神さまに仕えている外国の人のお話を聞きます。」
- ・子どものための伝道地便りか、その他の適当なお話を 읽습니다。

◎ 献金

- ・スチュワードシップについて、アブラムに関連させて話してください。
- ・クリスチャン生活で大切なものとして、什一献金とその他の献金について話し合しましょう。先週と同じ献金箱を使います。
- ・今期の伝道地について、何か新しいことを子どもたちに教えてください。

◎ お祈り

- ・子どもたちに、最近誰かを助けた経験があるか聞きましょう。神さまと周りの人に仕える方法を探している子どもたち一人ひとりを祝福して下さるようお祈りします。

第4課 天からの使者

部屋の入り口で生徒たちを迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。先週学んだことを生活の中でどのように体験したか話してもらいます。

「お話の前に」を始めます。

クラスの状況に応じてAかBのどちらかを選んでください。

祈りと讃美は「はじめよう」のあとの、プログラムのどこに取り入れてもかまいません。

A 秘密を打ち明ける

準備： 人数分の小さなプレゼント、聖書

◎ 活動

- ・クラスの始まる前に、小さなプレゼント(しおり、鉛筆、シールなど)を紙袋に人数分入れておきます。
- ・子どもたちが静かになったら、何人かの子どもに「もうすぐプレゼントをあげますね」とささやきます。
- ・その中のおしゃべりな子1人か2人に、袋の中を見せましょう。
- ・それから少しの間生徒たちに背を向けます。子どもたちは、あなたが何とささやいたのかを、それを聞いた子どもたちに尋ねるでしょう。

◎ 話し合しましょう

- ・「先生の秘密を聞いていない人は手を挙げてください。」手が挙がるのを待ちます。
- ・「秘密を知らないことについてどう思いましたか。」(イヤだった、別に気にしない、何だろうと思った、など)
- ・「秘密を聞いたけれども教えなかった人は？」手が挙がるのを待ちます。
- ・「どうして教えなかったのですか(秘密だったから、なんとなく)。」
- ・「誰か教えた人はいますか。なぜ教えたのですか。」(嬉しいことだから、など)
- ・「秘密がとても嬉しいことだと、教えたくてたまらなくなることがあります。」
- ・「マタイ28:19には、神さまが私たちに、他の人に伝えてほしいと思っておられる『秘密』が出てきます。何でしょうか。」
- ・誰かに聖句を見つけて読んでもらいます。「さあ、秘密とは何でしょう。」(イエスさまがもうすぐ来られるということ)
- ・「神さまはこの秘密を、誰にも教えないでいてほしいと思っているのでしょうか。違いますね。神さまは、みんなに、神さまのことを周りの人にはっきりと語ってほしいと思っておられます。神さまはみんなにこの良い知らせをどうしてほしいと思っておられるのでしょうか。」
- ・子どもたちはあなたといっしょにメッセージを繰り返します。

メッセージを一緒に言いましょ

神さまは、私が他の人のために
とりなしをするように望んでおられます。

B 知らない人

準備：ぼろを着た年配のゲスト、杖、聖書

◎ 活動

- ・事前に、年配の人に、ぼろぼろの上着と帽子を身に付けて、杖をついてクラスに来るようお願いしておきます。
- ・その人は、遅れてクラスに入ってきて、困っているような様子になります。あなたはその人に座るように言い、その後は無視します。
- ・その「知らない人」は、足を引きずって歩き、咳をし、くぐもった声で水を求めます。それから、自分は風邪をひいていると言います。
- ・あなたは気のないそぶりで、「〇〇さん、少し待っていてください。今お手伝いしますから。」と言います。このやりとりを2、3度繰り返して、お客さんの必要としていることを見過ごしていきます。数分ほどしたら、その人は教室を出て外で待ちます。
- ・その直後に、クラスみんなに呼びかけます。「私たちのお手伝いが必要な人を紹介します。」
- ・それから振り返って、年配の人が座っていた所を見ます。誰もいないのでびっくりしたふりをします。
- ・その人の名前を呼び、いなくなったことを心配します。子どもにドアの外を見るように言い、その子どもはゲストを連れて戻ってきます。
- ・「私たちのお手伝いが必要だった人を紹介します。」その人の名前を紹介します。
- ・自分の人生と、神さまへの愛を短く語ってもらいます。
- ・この人が色々経験した興味深い人間だということ子どもたちが理解したところで、話し合いの時間に移ります。

◎ 話し合いましょ

- ・「先生が今どんな気持ちでいるかわかりますか。」(無視して申し訳ない、恥ずかしい、悲しい)「なぜですか。」(親切にできなかったから)
- ・「今日のお客さまに話しかけた人はいますか。なぜ話しかけた／話しかけなかったのですか。」
- ・「だれか優しくしてあげようとした人はいますか。」優しくしようとした人がいたら、褒めてあげましょ。
- ・聖書を開いて創世記18:2を読みます。「目を上げて見ると、三人の人が彼に向かって立っていた。アブラハムはすぐに天幕の入り口から走り出て迎え、地にひれ伏して、」
- ・「アブラハムは知らない人が家に来たとき、どのようにして迎えましたか。」(敬意をもって、温かく迎えた、食べ物あげた)

- ・もしアブラハムが今日ここにいたら、さっき〇〇さんが来たときにどうしたでしょうか。」(握手をした、「お元気ですか」と言った、飲み物か食べ物をすすめた)
- ・アブラハムは、知らない人が来たときにどうしたらいいのか、私たちにどんなことを言うと思いますか。」(温かく接しなさい、どんなものが必要かを察しなさい、お手伝いしましょうかと言いなさい、その人の必要な物を代わりに言ってあげなさい)
- ・子どもたちといっしょにメッセージを言います。

メッセージを一緒に言いましょ

神さまは、私が他の人のために
とりなしをするように望んでおられます。

- ・「先生が年配のゲストに優しくすることを忘れないために、みんなはどんなアドバイスをくれますか。」(その人が何を必要としているかを見つける、にっこりしてあげる、ゲストの横に座る、温かく迎えてあげる、など)

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。何か全員に発表したいことのある生徒がいたら、この時間にやってもらいます。
- ・ビジターのお友だちを紹介しましょう。
- ・お誕生日や特別な出来事を発表します。

◎ 伝道地便り

- ・「世界中で、人々はイエスさまの代わりにイエスさまの愛について語っています。今日のお話には、遠い遠いところに住んでいる子どもが出てきます。」

◎ 献金

- ・今期の伝道地の様子がわかるような献金箱を使います。今期の13回献金が送られる国について、何か新しいことを子どもたちに教えてください。

◎ お祈り

- ・子どもたちに、今週どんなことをして誰かを助けてあげたか聞きましょう。それはごほうびを期待してのことだったでしょうか。ごほうびはもらえたのでしょうか。
- ・ごほうびを期待せずに喜んで仕える気持ちを与えてくださったことに感謝するお祈りをします。

第5課 神さまの代わりに語ったサムエル

部屋の入り口で生徒たちを迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。先週学んだことを生活の中でどのように体験したか話してもらいます。

「お話の前に」を始めます。

クラスの状況に応じてAかBのどちらかを選んでください。

祈りと讃美は「はじめよう」のあとの、プログラムのどこに取り入れてもかまいません。

A 最悪な時

準備: 紙、クレヨンか鉛筆、聖書

◎ 活動

- ・「今までで一番いやだった出来事を思い出してください。それについての絵かお話をかきましょう。自分の名前は書かないでください。」必要に応じてアシスタントが手助けします。
- ・絵とお話を集めます。絵そのものは見せずに、絵が表していると思われるお話を想像して語り、お話が書かれているものはそれを読みます。
- ・がんばってかいたことを褒め、それはたいへんだったね、いやな思いをしたでしょう、と言ってあげましょう。

◎ 話し合しましょう

- ・サムエル記上12:22を読みます。「これは今日の暗唱聖句です。これは、私たちはもし間違ったことをしてしまっても、『神さまは私を、神さまの子どもとしておつくりになったことを喜んでおられます。』と言える、という意味です。」

メッセージを一緒に言いましょう

神様は、わたしを神様の子どもとして

おつくりになったことを喜んでおられます。

B 私への愛

◎ 活動

- ・「私たちを愛している人たちは、その愛を色々な方法で表します。どんなものがあるか考えてみましょう。先生から始めます。『みんなは私への愛を、頭をなでてくれることで表します。』」
- ・「次の人は、『みんなは私への愛を、頭をなでてくれることと、〇〇で表します。』と言ってください。」グループ内で順番に言っていきます。
- ・それぞれが前の人が出したことに次々に自分のことばをつなげていきます。大人数のクラスでは、子どもを6~10人のグループに分け、それぞれに大人のアシスタントをつけてこの活動をしましょう。

◎ 話し合しましょう

- ・「私たちはたくさん愛されていますね。いっしょに今日の暗唱聖句のサムエル記上12:22を読みましょう。」
- ・子どもたちに聖句の箇所を見つけさせ、いっしょに読みます。「『御自分の民と決めて』というのは、子どもにする、という意味です。神さまがあなたを自分の子どもにすると決めたということは、つまり、神さまはあなたをどう思っておられるのでしょうか。」(とても好き、愛している)
- ・「神さまが私たちを愛するのをやめないと、どうしてわかりますか。それは今日のメッセージに書かれています。」全員でメッセージを言ひましよう。

メッセージを一緒に言ひましよう

神様は、わたしを神様の子どもとして
おつくりになったことを喜んでおられます。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。子どもたちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましよう。お誕生日や特別な出来事を発表します。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りを読みます。

◎ 献金

- ・王冠に見えるように装飾した入れ物を使って献金を集めます。神さまはこのお金で何をなさるか、一人ひとりに聞いてみましよう。

◎ お祈り

準備:水滴の形をした紙を人数分

- ・子どもたちは、水滴の形をした紙に、神さまがしてくださった素晴らしいことと、祈りの課題を書きます(必要に応じて大人がサポートします)。
- ・書き終わったら、前に出て、一人ひとりがその紙に書いたことをお祈りします。最後に先生がお祈りして終わります。

第6課 神さまは必ず勝利される

部屋の入り口で生徒たちを迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。先週学んだことを生活の中でどのように体験したか話してもらいます。「お話の前に」を始めます。

クラスの状況に応じてAかBのどちらかを選んでください。

祈りと讃美は「はじめよう」のあとの、プログラムのどこに取り入れてもかまいません。

A

登れるかな

準備: 2メートルほどの高さのはしご、安全のためのクッション

◎ 活動

大人に近くについてもらって、はしごに登るよう子どもたちを促します。一番上まで登ったら、その努力を褒め、降りる前に教室の中を見渡すように言いましょう。

◎ 話し合しましょう

- ・「登ると降りるのでは、どちらが難しかったですか。降りるほうが難しい人がいるのはなぜでしょう。登るときは、上を見るので、次の段がすぐ近くにあるのがわかります。降りるときは、一番下まで見てしまうので怖くなるのです。」
- ・「神さまを信頼することは、上を見るようなものです。神さまを信頼することは、今日のメッセージの『神さまは私を、サタンの手から救ってくださいます』をいつも覚えていることです。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまは、わたしをサタンの手から救ってくださいます。

B

深い谷

準備: 2メートルの直線を子ども6-8人につき1本、床にマークしておきます。

記録係の大人、活動を監督する大人

◎ 活動

- ・子どもたちを6-8人のチームに分けます。
- ・そのチームは、床にマークされた直線の両端に立って向かい合います。
- ・「このラインの両端は深い谷だということにしましょう。少しでも足を踏み外すと、3000メートル下の水の中に転落します。もし落ちたら(線から外れたら)、列の後ろについて、もう一度やってみてください。向かい合った両方のチームから1人ずつが、同時に渡らなければなりません。」(記録係は、2人とも渡りきったペアの名前を記録します。)

◎ 話し合しましょう

- ・記録係は、2人とも線を踏み外さずに渡りきったペアの名前を発表します。
- ・「今のゲームは面白かったですか。渡るのに成功したのは、誰のおかげだと思いますか(自分のパートナーのおかげ)。」
- ・サムエル記上14:6を声に出して読みます「主が勝利を得られるために、兵の数の多少は問題ではない。」
- ・「私たちが危険から逃れることができたなら、それは神さまのおかげでしょうか(はい)。それはなぜですか。」子どもたちの答えを待ちます。
- ・「というわけで、今日のメッセージはとても大切なのです。」子どもたちといっしょにメッセージを言います。

メッセージを一緒に言いましょう

神さまは、わたしをサタンの手から救ってくださいます。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。子どもたちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。お誕生日や特別な出来事を発表します。

◎ 伝道地便り

子どものための伝道地便りを読みます。

◎ 献金

- ・盾かかぶとに見えるよう装飾した入れ物で、献金を集めます。子どもたちに、献金はイエスさまがサタンと罪との戦いに勝つために使われることを話します。

お祈り

祈りの課題をリクエストした後、子どもたちは軍隊式に「休め」の姿勢でお祈りに参加します。

第7課 ライオンとくま

安息日学校によろこそ

教室の入り口で生徒たちを一人ひとり迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

「お話の前に」を始めます。状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A 羊飼いいりレー 準備: サンドルを2組

◎ 活動

- ・子どもたちを2組に分けてリレーをします。
- ・子どもたちはサンダルを履いて指定された場所まで走り、戻ってきたらサンダルを脱いで次の人に渡します。
- ・このレースは、速さと同じくらい、静かにしていることも大事だと言いましょう。本物の羊飼いは、素早く静かだからです。

◎ 話し合しましょう

- ・「羊飼いはどうして静かにしないといけないと思いますか(ライオンやくまが出るから、など)。
- ・「私たちが痛めつけようとするライオンのような敵には、どんなものがあるでしょう。」子どもたちの答えを聞きます。
- ・「I ペトロ5:8を開いてください。」子どもたちといっしょに聖句を読みます。「みんなの敵のサタンは、えさを求めてほえたけるライオンのように、私たちの周りをうろついています。」
- ・「みんなは自分の力でライオンの攻撃から身を守ることができますか(いいえ)。自分の力でサタンや罪から身を守ることができますか(いいえ)。怖いと思いますか。」答えを聞きます。
- ・「でも神さまのお恵みにより、私たちはこう言うことができます。」いっしょにメッセージを言います。

メッセージを一緒に言いましょう

私は自分で自分を救うことはできません。

私を救ってくださるのは、イエスさまです。

B 羊の工作

準備：粘土または羊の型紙、のり、合成繊維か毛糸か綿

◎ 活動

1: 子どもたちは粘土で羊をつくります。

2: 子どもたちは合成繊維か毛糸か綿を型紙に貼って羊をつくります。

子どもたちが自分の名前を羊に書いたら、その羊を集めて聖書の勉強の時間までとっておきます。

◎ 話し合いましょう

- ・ 誰かに詩編23:1、2を読んでもらいます。「主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。主はわたしを青草の原に休ませ」
- ・ 「青草の原とは何でしょう(緑の草が生い茂った野原のこと)。羊はなぜ青草の原が好きなのでしょう(えさになる草がたくさんあるから、寝転がって休むことができるから)。
- ・ 「あなたの世話をして、敵から守ってくれる羊飼いのことをどう思いますか。」子どもたちの答えを聞きます。「今から言う、神さまのお恵みについての良い知らせを、ずっと覚えていてほしいと思います。メッセージをいっしょに言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

私は自分で自分を救うことはできません。

私を救ってくださるのは、イエスさまです。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・ 教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。子どもたちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・ ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。お誕生日や特別な出来事を発表します。

◎ 伝道地便り

子どものための伝道地便りや、その他の手に入る物語を読みます。

◎ 献金

・献金入れを羊毛でできた素材で覆い、それで献金を集めます。子どもを1人選び、その子に、この献金が世界中の神さまの「羊」のためにどのように使われるのかを話させます。

◎ お祈り

- ・ ポップコーン式お祈りをします。みんなで輪になります。子どもたちは目をつぶり、羊飼いととしての神さまを表す言葉を1つずつ言います(優しい、世話をしてくださる、愛してくださる、など)。
- ・ これを、ポップコーンがはねるときのように、いつでも、どこからでも言っていいことにします。それから、同じくポップコーン式に、良い羊飼いにお願い事をします。
- ・ 最後に教師が、子どもたちが羊飼いの世話を受けて安全に過ごすことができるようお祈りして終わります。

第8課 神さまはふたたび勝利される

安息日学校によろこそ

教室の入り口で生徒たちを一人ひとり迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

聖書の学びについて何か話したいことがあるかを尋ねます。

「お話の前に」を始めます。状況に応じてどの活動をするか選んでください



分け合いましょう

準備: 美味しそうなおいのする食べ物、果物、出来たてのポップ

コーンかパン、「先生のテーブル さわらないこと」と書いた注意書き

◎ 活動

- ・あらかじめ、見るからに美味しそうなおいの食べ物をテーブルに並べ、目に付きやすいところに注意書きを置いておきます。
- ・次の活動中、先生方は時々テーブルのところに行って何か食べ、「美味しい」と声をあげましょう。子どもたちが食べたいと言っても、首を振って注意書きを指差し、「これは先生のごちそうです」と言ってください。
- ・後から、「みんなは先生ではないけれど、先生はこのごちそうをみんなと分け合うことにしました」と言ってください。

◎ 話し合いましょう

- ・みんなが食べている間に尋ねます。「先生たちが分けてくれなかったとき、どんな気持ちがありましたか(怒った、すごく欲しかった、お腹が空いた、腹が立った)。」
- ・「でもこれは先生たちへのご褒美です。みんなは先生ですか(違います)。」
- ・「ではなぜ先生はみんなにあげることにしたのでしょうか(私たちのことが好きだから、私たちにもごちそうを食べてほしいと思ったから)。」
- ・「羊飼いの少年ダビデは、後で兵士になったとき、分け合うことについてある言葉を残しています。サムエル記上30:24をいっしょに読みましょう。」子どもたちが聖句を見つけるのを待ちます。必要に応じて助けてあげてください。
- ・「これは、戦いに勝ってご褒美をもらった人たちが、そうでない人たちとそのご褒美を分け合う、という意味です。神さまも同じようになさいます。神さまはサタンとの戦いに勝ちました。今日のメッセージをいっしょに言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

神さまが戦いに勝利される時、私も勝者となります。

B 宝探し 準備:シール、マーカー、ビー玉、鉛筆、消しゴム

◎ 活動

- ・教室のあちこちに小さな宝物をたくさん隠します。
- ・「今日は3分間宝探しをします。教室のあちこちに小さな宝物が隠されていますよ。用意はいいですか。1、2、3、始め！」子どもたちは3分間、またはほとんどの宝物がを見つけ出されるまで宝探しをします。
- ・その後全員に自分の席に戻るよう言い、見つけたものを見せてもらいます。たくさん見つけた子もいるでしょうし、何もいない子もいるでしょう。

◎ 話し合しましょう

- ・「宝探しはどうでしたか(たくさん見つけた人は楽しかったでしょうし、見つけられなかった人は楽しくなかったでしょう)。」
- ・「さあ、みんなが楽しくなるにはどうしたらいいでしょうか。」子どもたちが宝物を公平に分けるのを待ちます。
- ・子どもたちにサムエル記上30:24下句(「皆、同じように分け合うのだ。」)を見つけさせ、読ませます。
- ・「聖書は、戦いに勝ったら全員がその勝利を分け合うべきだと言っています。そしてこれは神さまのお恵みの良いニュースです。」
- ・いっしょにメッセージを言いましょ。

メッセージを一緒に言いましょ

神さまが戦いに勝利されるとき、私も勝者となります。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。子どもたちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょ。
- ・お誕生日や特別な出来事を発表します。

◎ 伝道地便り

- ・「外国の人を助ける働きをしている人は世界中にいます。今日の伝道地便りにも、外国で人助けをしている人が出てきます。」
- ・子どものための伝道地便りか、その他の適当な活動を通して、教会が全世界に向けて行っている援助活動を紹介してください。

◎ 献金

- ・もし可能なら、今期の伝道地の様子がわかるような献金箱を用意してください。この献金箱は今期を通して使います。

◎ お祈り

- ・神さまは私たちに毎日お手伝いをしてほしいと思っておられることを、子どもたちに理解させてください。そして、周りの人たちをもっとお手伝いできるよう神さまにお祈りします。
- ・1人か2人の子どもにお祈りしてもらいましょう。
- ・最後にあなたが短いお祈りをして閉じてください。

第9課 岩とすな

安息日学校によろこそ

教室の入り口で生徒たちを一人ひとり迎えます。どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。

今週の聖書の学びの中で一番面白かったことを尋ねます。

「お話の前に」を始めます。状況に応じてどの活動をするか選んでください

A 家をつくる

準備: 大きな段ボール箱と幅の広い粘着テープ

または、小さなテントか毛布、扇風機

◎ 活動

- ・「本当に箱の中に住んでいる人もいます。」
- ・子どもたちは5-10分で段ボール箱と粘着テープで家を作ります。または、小さなテントを張るか、椅子の上に毛布をかぶせます。
- ・子どもたちを3つのグループに分けて、3種類の家をつくらせても良いでしょう。
- ・その家で何人眠れるか入ってみたり、扇風機で強風を当てたりして、出来上がった家の快適さと耐久性をテストします。

◎ 話し合しましょう

- ・「テストの結果、どの家が一番良かったでしょうか。どの家に泊まりたいですか。」
- ・マタイ7:24、26を読みます。「この聖句には、岩の上に家を建てた人と砂の上に建てた人、どちらのようになりたいかを選ぶことができると書いてあります。イエスさまの上に自分の人生を築くことは、岩の上に家を建てるようなものです。それが今日のメッセージになります。」

メッセージを一緒に言いましょ

イエスさまという土台の上に人生を築くとき、

私には喜びがあります。

B きちんとしたものを建てる

準備: 建築家か便利屋さんのゲスト、木材、釘、かなづち

またはプレッツェルか棒状のパンと白いのりかバター

◎ 活動

- ・建築家か便利屋さんにゲストとして来てもらいます。その人に、木材と釘を持ってきてもらい、釘を

真っ直ぐに打つやり方を教えてもらいます。

- ・それから、仕事道具の使い方を説明してもらいます。
- ・岩の上に建てた家は台風でも吹き飛ばされないという話も簡単にしてもらいましょう。
- ・もし建築家がいなければ、かなづちと釘と木材を持ってきて、自分で子どもたちを監督してください。
- ・または、プレッツェルか棒状のパンを用意して、子どもたちに丸太小屋をつくらせても良いでしょう。白いのりかバターでプレッツェルをくっつけます。バターを使ったら、そのプレッツェルを後から食べることができます。

◎ 話し合しましょう

- ・「今日は、家を建てることについてどんなことを学びましたか。」
- ・詩編18:2を声に出して読みます。「神さまは大きな岩のような方です。私たちは自分の人生を神さまの上に築くことができます。今日のメッセージをいっしょに言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

イエスさまという土台の上に人生を築くとき、

私には喜びがあります。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。子どもたちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。
- ・お誕生日や特別な出来事を発表します。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りか、その他の適当な物語を読みます。

◎ 献金

- ・家の形をしていて上部に穴のある箱で、献金を集めます。
- ・集め終わったら、その家を平らな石の上に置きます。
- ・子どもに、この献金が〇〇(伝道地)の人々が最高の土台であるイエスさまを知るために使われるようお祈りしてもらいます。

◎ お祈り

- ・子どもたちに、先週始めた祈りの日記に書き入れてほしい課題やお祈りの答えがあるか尋ねます。
- ・みんなの前に、イエスさまを表す中くらいの大きさの石を置きます。
- ・子どもたちはポストイット(または紙)に、イエスさまという岩の上に人生を築いていない人の名前を書きます。それからその紙を石に貼ります。
- ・手をつないで輪になり、石に紙を貼った子は、紙に書いた名前を「ポップコーン式」に言っていきます。
- ・その人たちもイエスさまという土台の上に人生を築くことができるようお祈りします。
- ・最後に、揺るぎない土台でいてくださることをイエスさまに感謝します。

第10課 死んでしまったの？

教室の入り口で生徒たちを一人ひとり迎えます。
どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。
聖書の学びについて何か話したいことがあるかを尋ねます。
「お話の前に」を始めます。状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A 何が怖いですか 準備: 粘土かアルミホイル

◎ 活動

- ・子どもたちが教室に来たら、一人ひとりに粘土かアルミホイルを渡します。
- ・そして、密かに怖いと思っていること(物)は何かを尋ね、それを表す物を粘土かアルミホイルでつくると言います。本物そっくりでなくても、周りの人にわかる程度で大丈夫だと言ってあげましょう。
- ・全員が完成したら、つくった物を見せてそれを説明してもらいます。
- ・恥ずかしがり屋の子どもたちは、小さいグループでこの活動をしたがるかもしれません。その場合、各グループの誰かが、その人たちの分をクラス全体に見せます。

◎ 話し合しましょう

- ・子どもたちが工作を見せるたびに、クラス全体に「これは何に見えますか。」と尋ねます。
- ・そして、それをつくった子に、「あなたの怖がっているものについて、みんなの言っていることは合っていますか。これが何を表しているか、みんなに説明してください。」と言います。
- ・「自分のコントロールできないものを怖がるのは当然のことです。けれども私たちの神さまはとても大きな方で、私たちが怖い思いをしているときにも助けてくださいます。そして私たちのすぐ近くにいてくださいます。私たちはイエスさまを信頼することができます。イエスさまは、人間の命をつくれるほど力のあるお方だからです。」
- ・「今日のメッセージをいっしょに言いましょう。」

メッセージを一緒に言いましょう

永遠の命を与えてくださる神さまを礼拝します。

B 何があったの？

◎ 活動

- ・希望者1名に前に出て目を閉じてもらいます。
- ・目を閉じている間に、何人かの子どもたちの場所を入れ替わらせます。
- ・それから、「〇〇ちゃん、起きなさい！」と言います。

- ・そして、教室の中で何が変わったかを当ててもらいます。
- ・このゲームを何度か繰り返します(その度に違う物を変えていきます。例えば、あなたの服を替えたり、壁にかかっている物を変えたり、教室の電気をつけたり／消したりします)。

◎ 話し合しましょう

- ・「自分の予想外のことが起こっていたとき、どう思いましたか(おもしろい、いやだ)。寝る時間が来たときいつもどう思いますか(何とも思わない、寝るのはいや)。寝ている間にどんなことが起こると思いますか(何でも起こり得る)。朝起きるとどんな気分になりますか(眠い、よく休めた、幸せ)。Ⅰコリント15:51を読みます。この聖句では、死の眠りについて何と言っていますか(皆がそれを経験するわけではないけれども、イエスさまが来られたときに皆が変えられる)。一番大切な変化は、私たちに永遠の命が与えられるということです。死ぬことのない体が与えられるのです。」子どもたちといっしょにメッセージを言います。

メッセージを一緒に言いましょう

永遠の命を与えてくださる神さまを礼拝します。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・子どもたちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。
- ・お誕生日や特別な出来事を発表します。

◎ 伝道地便り

- ・「『宣教師』とは、神さまのことを伝える人のことです。イエスさまは最高の宣教師でした。イエスさまは天から送られ、今もそして永遠に命をお与えになる神さまについて証しました。今日は今この地上で活躍しているほかの宣教師たちのお話を聞きます。」
- ・子どものための伝道地便りか、その他の手に入る伝道物語を読みます。

◎ 献金

- ・外側に「イエスさまありがとう」ときれいな文字で書かれた献金箱を使います。
- ・「献金を捧げるのに、特別な理由はいりません。ただ生きていることに感謝して捧げればよいのです。献金を捧げることは、賛美と感謝の表れなのです。」

◎ お祈り

- ・「祈りの日記」に書いてほしい「問題、悩み、心配事」や「神さまによる勝利」があるかを尋ねます。
- ・立ち上がって隣の人の手を握り、祈りの輪をつくります。

- ・命を与えられるお方にお祈りを捧げましょう。
- ・子どもたち一人ひとりに、神さまを賛美する祈りの言葉を一つずつ加えてもらいます。

第11課 あとの9人はどこにいるのか

教室の入り口で生徒たちを一人ひとり迎えます。
どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。
聖書の学びについて何か話したいことがあるかを尋ねます。
「お話の前に」を始めます。状況に応じてどの活動をするか選んでください。



親指がなかったら

準備: マスキングテープか包帯、ボールか丸めた紙、

チームの数と同じだけの紙と鉛筆

◎ 活動

- ・この活動は、子どもたちが神さまのお与えになった親指を感謝するためのものです。リレー形式にすることで、より楽しく学ぶことができます。
- ・子どもたちに、ペアを組んで相手の人の両方の親指を手のひらに固定して、親指を使えなくするよう指示します(必要に応じて大人が手伝います)。それからリレーのチームをつくります。それぞれのチームの中でリーダーを決めます。もし子どもたちが、リレーが簡単すぎると言ったら、片手を背中後ろに回すよう言ってください。
- ・丸めた紙のリレー: リーダーは、列の先頭の人にボールか丸めた紙を投げます。その人はそれをキャッチしてリーダーに投げ返します。それからその場にしゃがむか、列の最後尾まで走っていきます。リーダーは次の人を相手に同じことをします。最後の人からリーダーにボールを投げ返すまで続けます。
- ・署名レース: チームに紙と鉛筆を配ります。子どもたちは親指を手のひらにつけたままです。リーダーは紙に自分の名前を書き、次の人に紙と鉛筆を回します。それぞれ順番に名前を書いていきます。最後の人から署名が終わったらその紙を先生のところに持っていきます。
- ・親指を元に戻してまた同じリレーをやりましょう。

◎ 話し合しましょう

- ・「また親指が使えるようになるのはどんな感じですか。ハンセン病の人たちは手や足の指を無くしてしまうことがよくありました。ハンセン病にかかると、感覚が無くなってしまうので、指をけがしてもそれに気がつきません。その傷が炎症を起こして、最後には指が腐って落ちてしまうのです。ハンセン病で指を失った人はどんな気持ちだったのでしょうか。また手が使えるようになったらどんな気持ちになったか想像してみてください。今日は、どんなことで神さまを賛美しましょうか。賛美は、神さまを礼拝する本当に良い方法です。」詩編9:1、2を声に出して読みます。
- ・「これが今日の私たちのメッセージです。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまに感謝することは、礼拝です。

B 世界のことばで「ありがとう」 準備:「ありがとう」の様々な言い方を書いた紙を人数分

◎ 活動

| | |
|---------|---------|
| 日本語 | ありがとう |
| 英語 | サンキュー |
| インドネシア語 | トリマカシー |
| スペイン語 | グラシアス |
| ヒンディー語 | ダンニャバード |
| フランス語 | メルシー |
| スワヒリ語 | アサンテ |
| 中国語 | シェシェ |
| ロシア語 | スパシーバ |
| ドイツ語 | ダンケ |
| アラビア語 | シュクラン |

手話 手の甲にもう片方の手を垂直に当て、その手を上げます。

- ・『ありがとう』と表現するには色々な方法があります。リストには、色々な言葉の『ありがとう』がのっています。リストを見ながら、色々な『ありがとう』を言ってみましょう。」

◎ 話し合しましょう

- ・「神さまは毎日、色々な言葉で『ありがとう』を聞いています。みんなが今聞いたのは、神さまが聞いている『ありがとう』のほんの一部です。みんなも自分の言葉で、神さまに「ありがとう」をたくさん聞いていただきましょう。」
- ・最後に、みんなの好きな賛美歌の歌詞を各言語の「ありがとう」に置き換えた替え歌を歌います。「サンキュー メルシー グラシアス トリマカシー……」といった具合です。
- ・「それでは今日のメッセージをいっしょに言いましょ。」

メッセージを一緒に言いましょ

神さまに感謝することは、礼拝です。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・子どもたちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。
- ・お誕生日や特別な出来事を発表します。

◎ 伝道地便り

・子どものための伝道地便りかその他の適当な物語を読みます。

◎ 献金

- ・この献金が神さまのことを他の国の人に伝えるために使われ、その人たちがここにいるみんなのように神さまに感謝できるようにしてください、とお祈りします。
- ・先週と同じ献金箱を使います。
- ・今期の13回献金が送られる地域について、何か新しいことを教えましょう。

◎ お祈り

- ・みんなの「祈りの日記」に書いてほしい祈りの課題や解決した問題があるかを尋ねます(第8課参照)。
- ・歌詞が祈りのことばになっている賛美歌を歌います。
- ・子どもたちに、今週の出来事の中から神さまに感謝したいことをお祈りするよう促しましょう。

第12課 まばゆい光

教室の入り口で生徒たちを一人ひとり迎えます。
どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。
聖書の学びについて何か話したいことがあるかを尋ねます。
「お話の前に」を始めます。状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A 何百万もの光 準備: 鏡2つ、ろうそく1本、マッチ

◎ 活動

- ・鏡を直角に置いて、教室の電気を消します。
- ・ろうそくに火を付け、鏡の近くに持っていきます。
- ・鏡にいくつもの影が映るのを観察しましょう。

◎ 話し合いましょう

- ・詩編89:15、16を声に出して読みます。
- ・「もしろうそくに火がついていなければ、鏡はどう見えますか(暗い)。」
- ・「たくさんの光を見てどんな気分になりましたか(明るかった、楽しかった、面白かった)。」
- ・「この活動から、神さまと私たちと礼拝について、どんなことが学べますか(神さまは光である。礼拝をするとイエスさまの光が見える。光を見ると喜びがあふれる)。」
- ・「今日のメッセージはこれです。」

メッセージを一緒に言いましょう

礼拝とは、神さまがいっしょにいて
くださることを喜ぶことです。

B 暗闇の中で輝く 準備: 小さなボール、アルミホイル、懐中電灯

◎ 活動

- ・ボールをアルミホイルで包みます。
- ・教室の電気を消してみんなでボールを見ます。
- ・「ボールは光っていますか(光っていません)。」
- ・「でも懐中電灯を当てると、光が部屋の中に反射します。」
- ・やってみせましょう。

◎ 話し合しましょう

- ・Ⅱコリント3:18を声に出して読みます。
- ・「神さまを礼拝すると、どんな良いことが起こりますか(心が喜びで満たされる)。」
- ・フィリピ4:4を声に出して読みます。
- ・「もしいつも喜んでいるとすれば、それと同時に何をしていることになりますか(礼拝)。」
- ・「なぜなら…(このあとメッセージを言います。そしてその後で、子どもたちにもいっしょに言わせませす)。」

メッセージを一緒に言いましょ

礼拝とは、神さまがいっしょにいて

くださることを喜ぶことです。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・子どもたちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。
- ・お誕生日や特別な出来事を発表します。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りかその他の適当な物語を読みませす。

◎ 献金

- ・今期の13回献金が送られる地域を表す献金入れで、献金を集めませす。
- ・献金を集める間、ろうそくに火をつけておいてください。
- ・「私たちは献金で伝道を助けることによって、神さまの愛の光を広めることができます。」

◎ お祈り

- ・お祈りの前に、イエスさまの生活がそうだったようにみんなの生活も光り輝くものにしていただくということをお話し合います。
- ・ろうそくに火をつけ(目は開けたままで!)お祈りをしませす。
- ・みんなの「祈りの日記」に祈りの課題や心配事、そして祈りへの答えを書きませす。
- ・そして、今暗闇の中にいる人のために、子どもたちに順番にお祈りしてもらいます。

第13課 ろうやにて

教室の入り口で生徒たちを一人ひとり迎えます。
どんな1週間だったか(嬉しかったことや困ったことなど)を尋ねましょう。
聖書の学びについて何か話したいことがあるかを尋ねます。
「お話の前に」を始めます。状況に応じてどの活動をするか選んでください。

A 大あらし！(フルーツバスケット)

◎ 活動

- ・子どもたちは椅子を丸く並べて座ります。
- ・一番誕生日の早い人を選んで、輪の真ん中に立ってもらいます。この人がリーダーです。
- ・このゲームでは、みんなが動いている間にリーダーが誰かの席を奪います。余分な椅子がないようにしてください。
- ・子どもたちは、リーダーが自分に当てはまる特徴を言ったら、席を移動しなければいけません。
- ・例えば「白い靴下を履いている人」などです。すると白い靴下の人全員立ち上がって席を移動し、リーダーにはその間に椅子を奪おうとします。椅子にあぶれた人は「新リーダー」になります。
- ・何回かやってみましょう。

◎ 話し合しましょう

- ・リーダーになった人たちに尋ねます。「真ん中に立っているのはどんな気分でしたか。なぜそこから抜け出したいと思いましたか。そこから抜け出すためにどんな手を使いましたか(ゲーム中の出来事について話し合います。ムキになって椅子を奪い合った人もいたかもしれませんし、何度も連続してリーダーになった人もいるでしょう)。」
- ・「席に戻れたときどんな気持ちになりましたか。真ん中にいることと、ろう屋の中にいることは、どんな点が似ていますか(そこにいたくない、自分で出ることができない、イライラしてくる、など)。」
- ・「詩編142:8の最初の部分を読みましょう。『わたしの魂を枷^{かせ}から引き出してください。あなたの御名に感謝することができますように。』これは誰に向かって話しかけているのでしょうか(神さま)。」
- ・「神さまは、あなたがろう屋の中にもあなたのことを気にかけてくださるでしょうか(はい、神さまはいつも私たちのことを気にかけてくださいます)。」
- ・「それを聞いて、神さまのことをどう思いますか。」子どもたちの答えを聞きます。
- ・それから子どもたちに、今日のメッセージを言って聞かせます。

メッセージを一緒に言いましょう

私は神さまを礼拝し、

神さまのことを他の人々にも伝えます。

B 縛りつけられて

準備：目かくしをした人を困らせたりイラつかせたりするのに使うもの

（鼻をくすぐるための羽根、投げつけるためのピンポンボールや丸めた紙、
顔に息を吹きかけるためのストロー、水を吹きかけるための霧吹き、など）。

生徒の人数の三分の一の数を用意します。

全体の三分の一の生徒を縛れるだけのロープや毛糸・スカーフ

全体の三分の一の生徒分の目かくし

◎ 活動

- ・生徒たちを3つのグループに分けます。最初のグループは困らせる役、2つ目は守る役、3つ目は囚人の役になります。
- ・守る人と囚人はペアを組みます。囚人に目かくしをし、椅子にそっと縛りつけます。
- ・困らせる役の生徒たちの仕事は、囚人をくすぐったり、困らせたり、嫌がらせをすることだ、と説明してください。
- ・それぞれの囚人には守る人がいて、その人の仕事はボールや羽根をブロックすることです。
- ・困らせる役の生徒たちには、囚人が痛い思いをするようなことをしてはいけない、嫌がらせをするだけだ、と、はっきりと申し渡しておいてください。
- ・2分ほどやってから役割を交代します。
- ・2分後にまた交代し、全員が囚人、困らせる役、守る役の全部をできるようにします。

◎ 話し合しましょう

- ・「椅子に縛りつけられて目かくしをされ、誰かに嫌がらせをされるとわかっている状態にいるのはどんな気分でしたか（どうしようもない、イライラする、など）。」
- ・「目に見えなくても守ってくれる人がいるとわかっているのはどんな気分でしたか（気が楽になった、その人に期待した、など）。」
- ・詩編28:7を読みます。「主はわたしの力、わたしの盾／わたしの心は主に依り頼みます。主の助けを得てわたしの心は喜び躍ります。歌をささげて感謝いたします。」
- ・「私たちを守ってくれるのは誰ですか（神さま）。」
- ・「この詩編を書いた人は、神さまのお守りに対してどんな反応をしましたか（感謝の歌をささげた、礼拝した）。」
- ・「私たちは神さまのお守りに対してどんな反応をしましょうか。先生は、神さまは私たちにこうしてほしいと思っておられると思います。」
- ・メッセージを読みます。

メッセージを一緒に言いましょ

私は神さまを礼拝し、

神さまのことを他の人々にも伝えます。

◎ お祈りと賛美(随時)

◎ 交わりの時間

- ・教室の入り口で生徒たちに聞いた、嬉しかったことや困ったことを(適宜)みんなに話します。
- ・子どもたちは、先週の学びを生活の中でどのように体験したかを話します。
- ・ビジターのお友だち全員を温かく歓迎し、一人ひとりの名前を紹介しましょう。
- ・お誕生日や特別な出来事を発表します。

◎ 伝道地便り

- ・子どものための伝道地便りかその他の適当な物語を読みます。

◎ 献金

- ・今日は今期の最後の安息日だということを子どもたちに思い出させます。

◎ お祈り

- ・みんなで輪になってひざまずきます。
- ・一人ひとりが、神さまのお守りに感謝して賛美の言葉を一文ずつ言っていきます。
- ・お祈りするのが難しい子どもは、パスしてもかまいません。その場合は隣の人の肩をたたいてパスの合図をします。